

震災のカトリック教会 ハダカになって再建へ

思い切ったリストラ策 他教団にも大きな示唆

大司教館売却し三教会など削減

大阪教区

復旧でなく“新生”です

神戸市周辺部へ宣教の裾野を広げる

カトリック大阪教区（安田久雄大司教・大阪、兵庫、和歌山の三府県）は、兵庫県南部大地震で多くの教会、修道院、学校、経営施設などに大きな被害を受けたが、同教区はこのほど「ハダカになって再建に取り組む」（安田大司教）意気込みで“新生”計画をまとめた。

“新生”と名づけたのは、単なる復旧でなく、新たな発展の転機にするというものだが、大司教館の敷地を売却するのははじめ、三教会を減らし、神学院も廃止するという思い切った“リストラ”を基本としている。総額三十五億円を見込む“新生”計画は、他教団にも示唆を与える点が多いようだ。

なおカトリックは、こうした被災の際には、世界的な規模で助け合いが行なわれるものの、原則としては教区ごとの独立採算体制を貫くことになっており、安田大司教としては、まず自らの力で再建する姿勢を示したとみられる。同計画の要旨は次の通り。

1. 各種施設・教会の再建に必要とされる資金三十五億円のうち、十二億円は教区内信徒（約五万人）の献金に期待し、二十三億円を教区（大司教）の責任で調達する。
2. 倒壊・損傷した聖堂・司祭館などは早急な再建・修理をめざすが、神戸市中央区にある中山手、下山手、灘の三教会は「神戸中央教会」に一本化する。このため二つの教会が削減される。
3. 大阪のビジネス街の教会として親しまれてきた北浜教会（大阪市中央区・住友信託銀行ビル六、七階）は、ビル修理に伴う分担金が負担できなくなったこともあり、廃止する。
4. 兵庫県西宮市甲陽園西山町の高級住宅街にある大司教館（敷地面積約八千六百平方メートル）は売却し、大司教館は大阪カテドラル玉造教会（大阪市中央区）内の大阪カトリック神学院に移す。
5. 大司教館内にある教区事務局、北浜教会内にある教区カトリックセンター等も大阪カトリック神学院に移す。これに伴い同神学院は廃止し、学生の教育は他の神学校に委託する。
6. 神戸市中央区の三教会統合に伴い、同市北区、西区など、人口が急増したのに教会の少なかった地域に、新しい宣教拠点の建設をめざす。
7. 大阪市生野区の生野教会から在日韓国・朝鮮人信徒が神戸市長田区でボランティア活動をした成果を生かし、同区鷹取教会（全壊）が今後、長田区などでの在日韓国・朝鮮人との接点を広げることを期待する。

米宗教団体が震災救援活動

募金や緊急物資

米国の宗教関係団体は、兵庫県南部地震の被災者に対する救援活動を進めているが、宗教専門週刊誌『クリスチャン・センチュリー』は次のようにまとめて報じている。

教会協議会（NCC）の救援組織「チャーチ・ワールド・サービス」は一月二十日に十万ドル（約一千万円）の募金を呼びかけた。そしてまず二万ドル分の毛布など緊急物資を送ることにした。救世軍は神戸で毛布、食料、衣料品などを配布した。合同メソジストの救援委員会は日本基督教団に一万ドルを送った。福音派の救援組織「ワールド・ビジョン」(本部カリフォルニア州モンロビア) は五万ドルを日本の関係組織「ワールド・ビジョン・ジャパン」に送ることになっている。 (C)C)